

6 発熱

【発症している人への対処】

- **観察**：体温計で測ればベストだが、顔面紅潮・前額部の熱さなどで判断する。
- **原因となる病態**：咽頭炎、気管支炎、肺炎、膀胱炎、中耳炎、インフルエンザ、レジオネラ肺炎、髄膜炎
- **対応**：水分補給、冷却（薄着にする）。
- **高熱・食欲不振が持続する場合**：医療機関へ搬送-入院治療。
- **医療支援が来たら**：医師の指示により、解熱薬・消炎鎮痛薬、抗生物質、消炎薬・去痰薬、抗インフルエンザ薬など、適応する薬剤を投与する。



POINT 市販の薬剤が確保できた場合、不用意に与えるとアレルギー症状を引き起こすことがあるので注意。

7 低体温症

寒そうにしている人がいないかどうかをチェックする。

1. 低体温症の観察ポイント

- がたがたと震えている。
- 唇が紫色になっている。
- 全身が濡れている。
- 気温が低いのに薄着。

- 薄着のまま横になっている.
- 薄着の子どもや高齢者.
- 災害発生後、時間が経過してから避難所に来た.

【低体温症のハイリスク】

高齢者／乳幼児／糖尿病／脱水状態／栄養不足／過労／
冷え性／全身の動脈硬化

2. 低体温症への対処は

- 乾いた衣類に着替える.
- 着替えがないときには、肌着の内側にタオル/新聞紙などを入れる.
- 室温をゆっくり上げる.
- 手足の付け根をお湯の入ったペットボトルで暖める.
- 呼吸、心拍が微弱ならすぐに救急搬送を検討する.

3. 低体温症の予防

- 乾いた保温の良い衣類に着替える.
- 室温を調節する暖房を確保する.
- お互いの体温を利用する(人1人は120Wの発熱体).
- 毛布や布、段ボールなどを利用して小さなシェルターを作り、人の体温で暖まる.
- ハイリスクの人と一緒に毛布に入って暖める.
- きちんとした食事と水分の摂取.
- 可能なら温かい食事や飲み物を規則正しく摂る.

心得 **Do!** やるべからず

急激に加温する。手足を急激にマッサージする。

急激に手足をこすると冷たい体液が体幹に一度に流入するのでショックを引き起こす。



POINT

- ・額や頬，手などに触れる。
- ・体温が35℃以下なら低体温症確定。
- ・体温が測れなくても処置する。

心得 **Do!** すべし

たとえ最初に低体温の人がいなくても，時間がたつにつれ状態の悪い人が避難所にやってくるので，保温できるものや暖房など，できる限りの準備をしておく。

8 クラッシュ症候群

【病態と原因】

クラッシュ症候群は，災害時に手足や体幹・腹部などが長時間圧迫を受け，筋肉細胞が崩壊するなどして細胞内からカリウムやミオグロビンが遊離し，急性腎不全や代謝性アシドーシスをきたす病態。

がれきの中から助け出された被災者などによく発生する。救出された人に，手足のしびれや茶褐色の尿，尿量の